

## 平成 22 年度決算の概要について

〔平成 23 年 6 月 16 日〕  
〔社〕第二地方銀行協会

会員行の平成 22 年度決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 23 年 3 月末時点の会員行 42 行ベース。

### 1．損益概況（業務純益：3,491億円、経常利益：1,557億円、当期純利益：751億円）

平成 22 年度決算の業務純益は、一般貸倒引当金繰入額の減少（今期は戻入）や国債等債券関係益の増加等を主因に、前年度比 + 308 億円、+ 9.7%増益の 3,491 億円となった。

経常利益は、個別貸倒引当金繰入額の大幅な減少から 1,557 億円と同 + 725 億円、+ 87.1%の大幅な増益となった。

当期純利益は、経常利益が大幅な増益となった一方、特別損益が東日本大震災の災害損失の計上を主因に 215 億円の赤字となったため、同 + 138 億円、+ 22.5%増益の 751 億円にとどまった。

### 2．業務純益の状況

#### (1) 資金利益（9,472 億円、前年度比 69 億円、0.7%）

資金利益は、前年度比 69 億円、0.7%減少して 9,472 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高（平残）が増加したものの、預貸金粗利鞘が縮小したため、同 + 23 億円、+ 0.3%の 7,926 億円にとどまった。

また、有価証券利息配当金は、長期金利の低下に伴い有価証券利回りが低下したことから、同 85 億円、5.0%減少して 1,624 億円となった。

#### (2) 役務取引等利益（652 億円、前年度比 + 47 億円、+ 7.8%）

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料および保険窓販業務手数料の増加等を主因に、前年度比 + 47 億円、+ 7.8%増益の 652 億円となり、平成 18 年度以来 4 年ぶりの増益となった。

#### (3) その他業務利益（580 億円、前年度比 + 145 億円、+ 33.3%）

その他業務利益は、国債等債券売却益の増加を主因に、前年度比 + 145 億円、+ 33.3%増益の 580 億円となった。

(4) 経費 (7,281 億円、前年度比 18 億円、 0.2%)

経費は、7,281 億円と前年度比 18 億円、 0.2%となった。

### 3. 不良債権処理の状況

不良債権処理額(特別損失を除く)は取引先の健全化に向けた取組みを強化したこともあり、1,295 億円と前年度比 766 億円、 37.2%の大幅な減少となった。

また、金融再生法開示債権(破産更生等債権、危険債権、要管理債権)は、破産更生等債権が倒産件数の減少等から減少したため、前年度末比 1,054 億円、 6.0%減少して1兆6,591 億円となり、開示債権比率も同 0.27%ポイント低下して 3.73%となった。

### 4. 経常利益および当期純利益の状況

経常利益は、業務純益の増加および臨時損失の縮小から、1,557 億円と前年度比 +725 億円、 +87.1%の大幅な増益となった。臨時増益は、個別貸倒引当金繰入額が大幅に減少したため、株式等関係増益は悪化したものの損失が縮小した(1,933 億円の損超と、同 416 億円の損失縮小)。

当期純利益は、経常利益が大幅な増益となった一方、特別増益が東日本大震災の災害損失の計上を主因に 215 億円の赤字となったため、同 +138 億円、 +22.5%増益の 751 億円にとどまった。

### 5. 単体自己資本比率(自己資本比率:10.34%、Tier 比率:8.07%)

単体自己資本比率は、自己資本額が増資や当期純利益の増益等により増加し、リスク・アセットはほぼ横ばいとなったことを受けて、前年度末比 +0.23%ポイント上昇し、10.34%となった。

また、Tier 比率は、同 +0.30%ポイント上昇し、8.07%となった。

### 6. 預金および貸出金(末残)

#### (1) 預金(57兆6,041 億円)

預金(末残)は、前年度末比 +8,340 億円、 +1.5%増加して 57兆6,041 億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金とも増加した。この間、外貨預金は為替円高を背景に引き続き高い伸びとなった。

#### (2) 貸出金(43兆8,766 億円)

貸出金(末残)は、前年度末比 +3,875 億円、 +0.9%増加して 43兆8,766 億円となった。

以上